

とやまの木を使う

「とやまの木で家をつくる会」の活動が始まって12年。ようやく、とやまの木も流通と木材性能と価格が市場のニーズに応えられるようになりました。

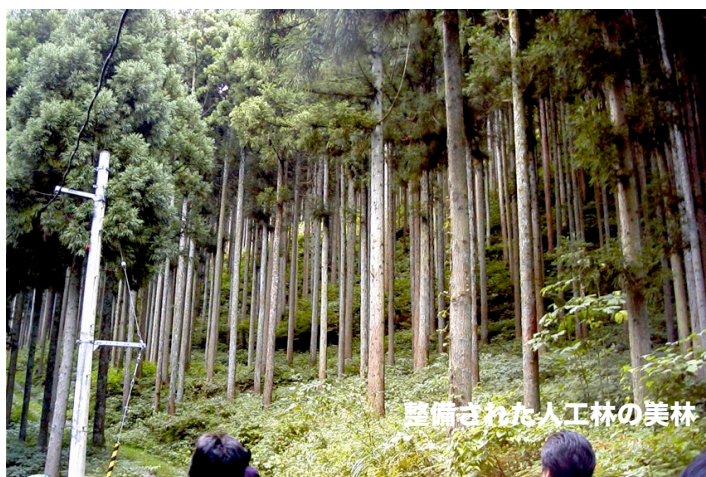
この間、木造建築設計の分野でも飛躍的に研究や技術開発が進み、実践者にとってその性能を確認する根拠が確立しつつあり、大きな前進となっています。

しかし、その技術を使って木造建築を確かで安心できるものにするためには丁寧なアプローチが欠かせません。

- ・含水率のチェック
- ・ヤング率の確認
- ・どの場所にどの木を使うかを決める選木作業
- ・それらの基になる構造計算

森林を見て、製材所を訪ね、大工さんの加工所で打合せをしていると木の特性を知るだけではなくそれに関わる人々と共につくる喜びと愛着が湧いてきます。

現代の木造建築は、構造設計の客観的な事実を踏まえて丁寧に木と向き合い、木だけではなく人材も含めて適材適所を実現することではないかと思っています。



整備された人工林の美林



含水率チェックと選木



打撃法によるヤング率の確認



構造計算とスタディ模型